

<p>【教材・教具名】 色分けボックス、果物分けボックス</p>	<p>【教科・領域】 算数、国語</p>
<p>【教材の使用材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はてなボックス（段ボール箱を手が入るようにくり抜いた物） （算数）・ 赤、青、緑、黄色の4色のボール <ul style="list-style-type: none"> ・ ペットボトル4本（ボールが入るよう口を切った物） （国語）・ いちご、ぶどう、バナナ、みかん、メロンのプラスチック模型 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペットボトル5個（果物の模型が入るよう口をくり抜いた物） ・ 「いちご」「ぶどう」「ばなな」「みかん」「めろん」カード 	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> （算数）色の弁別をすることができる。 （国語）文字を意識する。 	
<p>○使用方法</p> <p>（算数）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 色分けボックスに手を入れて、ボールを1個取り出す。 ② 同じ色のペットボトルにボールを入れる。 <p>（国語）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 果物ボックスに手を入れて、果物の模型を1個取り出す。 ② 同じ色のペットボトルに果物を入れる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p>○工夫した所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できる児童が先にすることで、他の児童が模倣するようにした。 ・ 初めは、ペットボトルの縁に果物と同じ色のカラーテープを貼り、色弁別して果物の分類ができるようにした。次にカラーテープをはがし、文字カードに果物の色と同じタックシールを貼った。少しずつタックシールもはがして、文字で果物が分別できるようにした。 	
<p>○効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色分けができなかった児童ができるようになった。 	

